

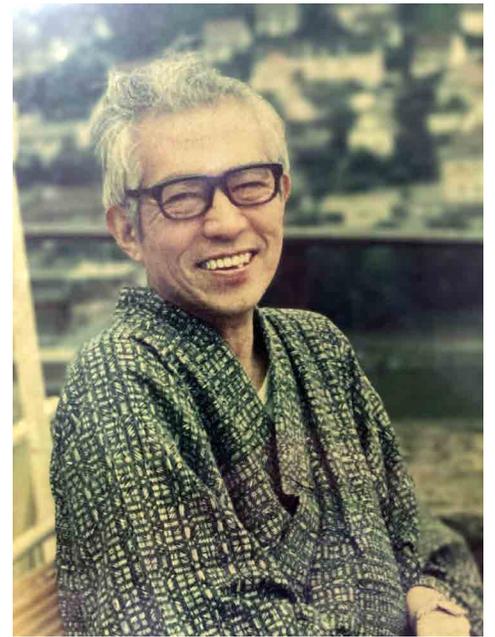
新教出版社 新刊案内 2024年5月16日発売

滝沢克己の現在

没後40年記念論集

滝沢克己協会編

四六判・358頁・本体価格3400円(税込定価3740円)・ISBN 978-4-400-31100-3 C1016



「純粹神人学」とは何か。

滝沢が最晩年に欧州の神学界に問おうとした思想は、没後40年を経て今なお読む者を魅了し挑発し続ける。それに応答した14名の渾身の論考を収録する。

滝沢克己(たきざわ・かつみ)

一九〇九—一九八四年。一高から東京帝大法学部に進んだが直ちに退学。九州帝国大学哲学科に転ず。卒業後、ボン大学でカール・バルトに師事。山口高等商業教授を経て九州大学教授となる。大学闘争では全共闘を支持して辞職。独自のインマヌエル思想を唱え、その影響は「滝沢神学」として国内はもとより海外にも及んだ。

【目次より】

第一部 純粹神人学の可能性の現在

1 実践神人としての中村哲

佐藤 誠

2 滝沢神学の救済論的な可能性に関して

金 珍熙

3 危機にひらかれる自由の在処

——滝沢克己のドストエフスキー論

石井砂母亜

4 私の所有を超えて

——根源的私的所有批判としての滝沢哲学

鈴木一典

5 滝沢克己における「キリスト教と日本人」

水田 信

第二部 純粹神人学と神学の葛藤の現在

6 滝沢克己とカール・バルトの接点と相違点について

牧村元太郎

7 啓示の光の射程

——啓示論をめぐる滝沢克己とカール・バルト

寺園喜基

8 間宗教的解釈学としてのバルト受容

S・ヘネツケ

9 滝沢神学における原型 (Urbild) と模範 (Vorbild)

——イエス・キリストのペルソナの分析における対概念

芝田豊彦

第三部 純粹神人学と哲学の現在

10 哲学との一つの真正な出会い方

黒田昭信

11 戦前の西田哲学批判の背景

前田 保

12 日本哲学史における滝沢克己の位置づけ

白井雅人

第四部 滝沢克己のインパクトの現在

13 九大反戦と滝沢思想

——ファントムプレシンプに寄せて

堀内隆治

14 わからなさへの定位——最首悟と滝沢克己

丹波博紀